

知床ヒグマエサやり禁止キャンペーン企画部会 企画説明資料

知床ヒグマエサやり禁止キャンペーン企画部会

1. 企画の背景

平成 24 年度、知床（斜里町、羅臼町）では知床世界自然遺産地域内を中心に 2,155 件のヒグマ目撃件数があり、ここ数年の目撃数に比べ倍増している。特に斜里町側のホロベツ・岩尾別地区における沿道では複数のヒグマを目撃できる状態が半ば常態化している状況であった。

ヒグマは知床の自然を特徴付ける観光資源として多くの来訪者を惹きつける。一方で、ヒグマに対するエサやり等の不適切な行為は、ヒグマの人馴れを進めさせ、観光地や隣接市街地の安全を脅かし、観光地の観光の機会を失わせ、知床の自然価値を失わせるといった課題を引き起こす。ひとたび人身事故が発生すれば知床が敬遠されることで、訪問者の減少につながる懸念も生じる。

知床においてはヒグマによる観光利用者の人身事故は発生していないが、ヒグマによる事故対策は、交通安全対策に似ており、取り返しのつかない事態になる前に未然に事故を防ぐための取組が必要とされている。

知床ヒグマエサやり禁止キャンペーン企画部会では、知床エコツーリズム戦略を活用した提案をもとに、ヒグマが生息する観光地において観光利用者と地域住民の安全を守りつつ、豊かな自然を体験する機会の維持と、野生動物と隣接して生活する地域住民との共生を実現するために、エサやり禁止を軸としたマナー啓発企画の内容を討議し、以下にまとめるに至ったものである。

2. 企画メニューとスケジュール（案）

1) 企画の対象範囲及び目標

対象動物：ヒグマを対象の中心とする

（本企画の実施によりキタキツネへのエサやり行為防止効果も期待する。）

広報対象：知床を訪れる観光利用者を主たる対象とする

企画目標：地域の多様な主体の参加により、啓発活動を進めることにより、「ヒグマにエサをやる」、「ゴミを放置する」行為をなくす。これによりヒグマによる事故・被害の未然防止をし、ヒグマが生息する観光地において観光利用者と地域住民の安全を守りつつ、豊かな自然を体験する機会の維持と、野生動物と隣接して生活する地域住民との共生する社会を実現する。

企画実施期間：当面 3 カ年の企画実施期間を想定する。

2) 企画における基本姿勢

企画を実行するにあたってはエサやりに対し、次の基本姿勢でメッセージを発信することとする。

ヒグマにエサをやってはいけないのは、

- ・エサやりの結果、人（観光客、住民）に被害が生じるからである。
- ・エサやりの結果、ヒグマを殺すことになるからである。
- ・エサやりの結果、野生のヒグマが野生らしく生きられなくなるからである。

3) 企画メニュー

知床ヒグマエサやり禁止キャンペーン企画は、適正利用・エコツーリズム検討会議の承認後に準備・着手する第1ステップ企画と、企画メニューの実行について今後検討を行う第2ステップ企画の2段階で実施する。

第1ステップ企画は、キックオフイベントとその関連企画であり、メディア等を通じた対外的発信による道内外の旅行計画者等への意識付けと、多様な主体が参加しての実施による地域への企画内容の浸透と新たな地域の企画参加者とのつながり作りの効果取得を目指す。

第2ステップ企画は、より広範な主体との連携による啓発活動企画を増やし、ヒグマエサやり禁止のメッセージのさらなる浸透・拡散とさらなる理解の深まりを目指す。

3-1) 第1ステップ企画メニュー

第1ステップ企画として次のイベント等を実施する。

【1. 知床横断道路開通式におけるキックオフイベントの実施】

実施時期：GW前後知床横断道路開通日～

実施内容：

- ・知床ヒグマエサやり禁止キャンペーン開始のプレスリリース
- ・啓発ロゴ、啓発ビデオの発表
- ・関係車両にマグネット式啓発ロゴを貼り、市民パトロール実施を宣言
- ・レンタカーへの啓発ロゴ設置
- ・横断道路開通式待合車両への啓発チラシの配布
- ・ホテル・旅館・自然系施設等に啓発ロゴと同一デザインのポスターを掲示
- ・ホテル・旅館・自然系施設等での啓発ビデオの上映

参加機関・団体（予定）：

知床斜里町観光協会、ウトロ自治会、(公財)知床財団、斜里町、羅臼町、北海道、環境省釧路自然環境事務所、北海道森林管理局

【2. 夏のエサやり禁止活動強化週間の設定と幌別ワンストップイベントの実施】

実施時期：6月下旬又は7月上旬

実施内容

- ・夏のエサやり禁止活動強化週間実施のプレスリリース
- ・イベント日を設定し、道道知床公園線の幌別分岐付近で、通行車両をワンストップさせ啓発チラシの配布
- ・関係車両にマグネット式啓発ロゴを貼り、市民パトロール実施
- ・レンタカーへの啓発ロゴ設置
- ・知床自然センターでのヒグマレクチャーイベントの実施

参加機関・団体（予定）：

知床斜里町観光協会、ウトロ自治会、(公財)知床財団、斜里町、羅臼町、北海道、環境省釧路自然環境事務所、北海道森林管理局

3-2) 第2ステップ企画アイデア

下表のアイデアについて実現に向けた調整を行い順次実施していく。

企画アイデア（案）	実施者・協力者（案）
○啓発ツールの制作	
ホームページの作成・統一バナーの作成	環境省、北海道森林管理局
自然系施設での展示の制作	環境省、斜里町、知床財団
○啓発ロゴ活用の企画	
啓発ロゴ入り缶バッチ・シール等の制作	知床斜里町観光協会・斜里町
コンビニ弁当等へ啓発シールを貼る	コンビニエンスストア、売店
割り箸の袋、紙ナプキンへの啓発ロゴ入れ	レストラン、食堂
レンタカーへ啓発シールを貼る	レンタカー事業者
啓発ロゴを使用した販売用グッズの制作	未定
○地域内外での連携	
ヒグマレクチャーのリーダー養成研修	環境省
啓発ポスターの募集と展覧会	小中学生
啓発ロゴ作成教室	小中学生
道路管理者・交通事業者等と連携した広報企画	知床斜里町観光協会、道路管理者、レンタカー事業者、航空会社、フェリー会社等
旅行会社・宿泊事業者・ガイド事業者等と連携した広報企画	知床斜里町観光協会、観光事業者

4) 企画の実行体制

知床ヒグマエサやり禁止キャンペーン企画部会は、適正利用・エコツアーリズム検討会議の最終承認を受けた後解散し、新たに知床斜里町観光協会、斜里町、環境省釧路自然環境事務所、北海道森林管理局で構成する知床ヒグマエサやり禁止キャンペーン企画実行委員会（通称：エサ禁委員会）を立ち上げ、企画の調整・準備及び効果測定の評価と対応を行う組織とする。毎年最低 1 回の企画実行委員会を実施し、当年度の総括と次年度の計画を行う。なお、企画の実施状況及び効果測定の結果について適正利用・エコツアーリズム検討会議へ毎年報告し、必要な助言を得ることとする。

個々の企画は、企画に賛同する者による持ち寄り方式の実施とする。

5) 効果測定とそのフィードバック

企画実施の効果を測ることは、企画の有効性を測るとともに、啓発活動を継続させる意欲の維持・向上のためにも必要なものである。

エサやりやゴミの放置、野生動物の人馴れは、その年の野生動物の目撃頻度、観光利用者数等により多寡のばらつきが生じることから、長期的な効果測定による長期トレンドで評価する必要がある。

効果測定により得られた結果は、企画実行委員会にて評価し、次年度の企画で対応を図ることとする。

効果測定の手法：

- ・観光利用者向けアンケートの実施（地域内の旅館・食堂等での簡易的なもの）
- ・観光事業者・住民向けアンケートの実施
- ・観光事業者実施の社内研修導入割合の推移
- ・報道件数の推移・記事内容の変化（エサやり等不適切事例の記事数・記事内容）
- ・ホームページアクセス数の推移
- ・不適切な行為の目撃情報の変化（ヒグマ遭遇アンケートから集計）

3. 知床エコツアーリズム戦略との対応

1) 3つの原則との対応

○遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上

観光利用者に正しいヒグマの知識とマナーを伝えることにより、餌付けヒグマの発生を抑制できれば、人・ヒグマ間の事故を予防し、不必要なヒグマ駆除を減らすことができ、知床世界自然遺産地域の資産価値を維持できる。

○世界の観光客への知床らしい良質な自然体験の提供

観光利用者に正しいヒグマの知識とマナーを伝えることにより、餌付けヒグマの発生を抑制できれば、より安全な利用・散策機会の確保等、知床らしい自然体験を提供

できる。

○持続可能な地域社会と経済の構築

ヒグマが高密度で生息する知床において地域全体の活動のもとに安定的な観光事業が実施出来ることは知床の観光価値を高め、地域経済の充実に寄与できる。

2) 8つの必要な視点との対応

○地域主体・自律的・持続的であること

地域のそれぞれの機関・団体の主体性が尊重され、無理なく継続できるよう配慮し、企画の実行体制の設計や効果測定の手法の設定を行った。

○共有・協働・連携・ネットワーク

地域内の各々の機関・団体、地域内外をつなぐ企画に発展できるよう配慮し、段階的な企画の設定、実行体制の設計を行った。

○自然環境を保全すること

観光利用者に正しいヒグマの知識とマナーを伝えることにより課題解決を図ることで、知床世界自然遺産の生態系の重要な構成要素であるヒグマの保全を目的とした企画が設定されている。

○自然生態系に関する理解を促進すること

観光利用者に正しいヒグマの知識とマナーを伝えることによる課題解決を図る企画として設定されている。

○地域の文化・歴史的背景を踏まえること

ヒグマによる事故・被害の未然防止のための企画であり、世界自然遺産地域に隣接する市街地の住民等の安全にも係る企画として設定されている。

○自己責任の原則と管理責任の分担

企画は、世界自然遺産地域を訪れる観光利用者一人一人の責任ある行動を促すものとして設定されている。

○知床のブランド価値を高めるという視点を持つこと

企画目標の達成により、知床のブランド価値を高めることができる。

○順応的管理型であること

3カ年の企画実施期間を設定し、効果測定により評価を得て、対応を図ることのできる構成としている。

参考：企画調整の経過

1) 知床ヒグマエサやり禁止キャンペーン企画部会の構成

部会構成メンバー

ウトロ自治会、ウトロ地域協議会、知床ガイド協議会、知床羅臼町観光協会、(公財)知床財団、網走開発建設部、北海道森林管理局、北海道オホーツク総合振興局、北見方面斜里警察署、羅臼町

有識者 間野勉 (道立総合研究機構)

事務局 知床斜里町観光協会
斜里町
釧路自然環境事務所

運営補助 環境コンサルタント(株) 環境省事業委託

2) 部会運営経過

平成 24 年

10 月 5 日 第 1 回適正利用エコツアーリズム検討会議 部会設置承認

10 月 26 日 第 1 回事務局会議 (斜里町役場)
知床斜里町観光協会、斜里町、ウトロ自然保護官事務所

議事 部会運営について

- ・部会の目標
- ・部会の進め方 (大きな手順)
- ・2 回の部会の内容及び具体的到達点

→第 1 回部会までの間に関係者との情報共有・課題共有を進める

10 月 27 日

～11 月 20 日 関係者との打ち合わせ

- ・知床ガイド協議会 (10 月 27 日)
- 知床財団 (10 月 30 日)
- ・羅臼町 (11 月 1 日)
- ・知床羅臼町観光協会事務局 (11 月 1 日)
- 知床斜里町観光協会ウトロ部会 (11 月 4 日)
- ・ウトロ地域協議会 (11 月 6 日)
- 知床羅臼町観光協会 (11 月 9 日)
- ・ウトロ自治会 (11 月 14 日)
- ・斜里警察署 (11 月 20 日)

「○」は知床斜里町観光協会、ウトロ自然保護官事務所の両者で、「・」はウトロ自然保護官事務所です。説明・意見聴取を実施。

→キャンペーンの対象をヒグマにすることについて各者概ね了解

ヒグマへのエサやりを禁ずる理由について一定の幅を確認

11月20日 第2回事務局会議（斜里町役場）
知床斜里町観光協会、斜里町、ウトロ自然保護官事務所
議事 第1回部会の進め方
・第1回部会の目標の確認
・役割分担
・進行メニュー
・部会資料の作成について
→上記について確認を行い、役割分担を行った。

11月22日 会議資料の確認
～11月26日 作成：ウトロ自然保護官事務所
確認：知床斜里町観光協会、斜里町、知床財団、間野委員

11月27日 第1回部会実施
出席者24名
司会 新村（知床斜里町観光協会）
進行 岡田（斜里町環境課）
資料説明 松田（知床斜里町観光協会）
議事 ・趣旨説明
・事例報告
・エサやり禁止キャンペーンについて
（自由討議）
・その他
→部会の目標、活動範囲の確認
→自由討議「ヒグマにエサをやってはいけない理由は？」
「ヒグマへのエサやりをなくすアイデアは？」
「アイデア・メニューの効果を最大にするには？」等

12月10日 第3回事務局会議（世界遺産センター）
知床斜里町観光協会、斜里町、ウトロ自然保護官事務所
議事 第2回部会に向けた進め方の確認

平成25年

1月11日 ステッカーデザイン検討ミーティング（世界遺産センター）
ウトロ自治会、ウトロ地域協議会、知床ガイド協議会、（公財）知床財団

- 知床斜里町観光協会、斜里町、ウトロ自然保護官事務所
 議事 ステッカーデザイン及びメッセージについて
 ステッカーを活用した企画アイデアについて
- 1月21日 知床斜里町観光協会ウトロ部会 企画部会説明会（知床プリンスホテル）
 議事 キャンペーン企画について
 ステッカー等の活用手段について等
- 1月28日 知床インフォメーションスタッフ交流会研修者向け説明会
 議事 キャンペーン企画内容について
- 2月6日 第4回事務局会議（世界遺産センター）
 知床斜里町観光協会、斜里町、ウトロ自然保護官事務所
 議事 第2回部会に向けた調整
 ロゴデザイン、映像制作について
- 2月20日 第2回部会実施
 議事 知床ヒグマエサやり禁止キャンペーン企画（案）について
 企画の実行体制について
- 3月1日 第2回適正利用・エコツーリズム検討会議
 最終承認手続き

3) 啓発ロゴ案

